

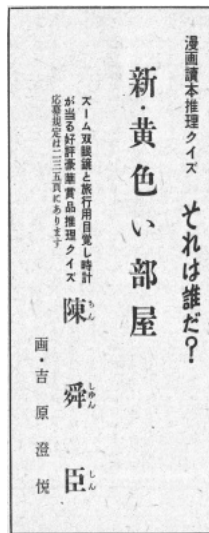
陳舜臣さんを語る会通信

NO.119 Jun. 2024

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34
橘雄三方「陳舜臣さんを語る会」
Tel.078-911-1671
編集 「陳舜臣さんを語る会通信」編集委員
発行日 2024年6月10日
<http://www.eonet.ne.jp/~yuzo/>

短編集未収録27作を順次紹介いたします/第3回4作、その1「新・黄色い部屋」

短編集未収録27作を順次、詳しく紹介しています。本号はその第3回です。前号に続き、初出年の古い順で4作取り上げました。
(編集委員 橘雄三)



「新・黄色い部屋」は『漫画読本』一九六五年1月号掲載。カットが三つ入って八ページ弱の短編です。

舞台・作中時間・登場人物及びあらすじ

「舞台及び作中時間」

この物語は昭和三十九年初冬の事件で舞台は神戸です。

事件は山に近いところでおこった。六甲山ほど有名ではないが、弘法大師ゆかりの再度山という山の麓、閑静な住宅地域の、とある一軒の洋館のなかで、一人の男が殺された。

「登場人物」

●大曾根軍平 55歳。パチンコ店『つる』経営。みごとな禿頭で、通称、『パチンコ屋のチャビン』。一週間前、山手の家を買って、パチンコ屋の二階から引越して来た。

●広田 刑事。

●クリーニング屋の少年店員。

●津島 32歳。万年落選画伯。広田刑事とは、小・中学時代の同級生。

●宮竹和夫 大曾根の情事の相手の弟。

●敷藻伝内 大曾根の情事の相手の夫。

●富村勇 ガラス屋。大曾根の情事の相手の夫。

「あらすじ」

被害者大曾根は、鈍器による頭部への一撃で殺されていた。死亡時刻は正午から午後二時までの間と推定された。

人通りの少ない閑静な住宅地であったが、警察は辛抱強い聞き込みで、午前十一時ごろ、自転車で大曾根邸の前を通ったクリーニング屋の少年店員を探しだす。その供述から、大曾根邸の近くで絵を描いていた津島に辿りつき、聞き取りは具体化していく。

他方、大曾根殺害の動機を持つ人物として、大曾根の残していた情事日記から三人が浮かびあがる。

容疑者の一人、ガラス屋の富村勇は、大曾根の依頼で部屋のガラスを黄色に入れ替えるが、このことが事件を解く鍵となる。



作品の記述に、「弘法大師ゆかりの再度山という山の麓、閑静な住宅地域」とあるが、作品を読んでいて、大曾根邸は現在の海外移住と文化の交流センターの位置と思える。

補足及び解決編

「新・黄色い部屋」は掲載誌『漫画読本』の推理クイズ作品です。犯人を推理し応募すると正解者の中から賞品が当たる。翌月号に「解決編」と当選者の発表があります。

■「新・黄色い部屋」解決編

■前号推理クイズ■

「新・黄色い部屋」解決編

作・陳 舜臣

津島は黄色にかかった窓ガラスを三十分間からんだ。道路から見える南がわのガラスがぜんぶかわっていたのだから、たとい北がわがまだでも、あと三十分たらずでとりつけはすんだはずだ。

津島はそのあとで大曾根を見ているから、富村はすでに帰ったと思われる。

その富村が行ったときに見たグラスやチーゾの指紋と歯型は、宮竹のと一致していた。つまり宮竹の訪問は富村よりも先である。

兇行はむろん部屋が黄色くなってから演じられた。そこは南北に窓があり、ほとんど空地のない建て方なので、壁も窓ぎわまでせまっている。裏塀は須磨の海を思わせる青色のペンキを塗っていたが、黄色いガラスを通してみると、当然緑に見える。敷藻は大曾根家に入ったことはないというながら「大曾根さん」とこの緑色の塀はすばらしい」と口をすべらした。応接間の内からでなければ塀は緑に見えない。犯人敷藻伝内の名を「色盲でない」と解説した人は、ちと考えすぎであろう。

短編集未収録作品紹介/第3回4作、その2「三つ巴の殺意」

巻末長篇 180枚一挙掲載！

三つ巴の殺意

陳 舜 臣

浜野政雄画



『三つ巴の殺意』は『推理ストーリー』の一九六五年2月号に掲載されました。右の画像、タイトルの上に「巻末長編一八〇枚一挙掲載！」とあるように、このような月刊誌掲載作品としては特別な長さで、大きめの挿し絵が六つ入って、B5版三十三ページという中編です。

舞台、作中時間、登場人物及びあらすじ

【舞台】

舞台は神戸。阪急三宮西口、移民斡旋所、生田新道、三本松不動尊など、神戸の地名が頻出します。右の挿し絵は、御影の瀟洒な邸で、ゴルフの素振りをしているのは、登場人物、フレッド・ウェブスターで、手前の女性は妻美代子です。

【作中時間】

月刊誌の一九六五年2月号に掲載されました。作中時間もその頃です。

【登場人物】

- 群馬新吉 四十過ぎ。三年前、未亡人と結婚。ダグラス・パーカーの専属ブローカーのような形で密輸宝石類の売り捌きをやっている。居酒屋「千万両」の常連。
- 宇治光夫 開業医。群馬新吉の中学時代の同級生。群馬は宇治を、「胸を張って歩ける男」と思っている。
- 大原 あまり業績の芳しくない海運会社の社員。むかし、群馬新吉の家の近所に住んでいた。居酒屋「千万両」の常連。
- ダグラス・パーカー 三十六歳のアメリカ人。日本で密輸宝石類を販売。山本通りの外人アパートに住む。ウェブスターがパーカーの理想像。
- 原芳子 パーカーの愛人、同棲。かつて、某宝飾店の店員。そのころ、まだ結婚前だった群馬新吉は芳子に熱を上げていた。そんな芳子をパーカーは奪ったと、群馬はいまも根にもっている。
- フレッド・ウェブスター 六十歳。阪神間の御影に住む。十年前に妻を亡くす。二十歳で来日。英国の保険会社職員から自立して貿易商を営み財をなす。現在は、金貸しをしたり事業に投資したり、悠々自適に見える。パーカーの金主。
- 美代子 二十八歳。三年前からウェブスターと同棲、いまは正式の妻となっている。薬局務めの経験も。
- 市川貫造 宝石ブローカー。群馬の知り合い。
- 吉本清子 ウェブスター家の老女中。
- 山本弘一 美代子の昔の恋愛相手。服毒自殺。
- 鈴木伸 美代子の恋人。二度の秘密のデート。
- 坂井秀代 ウェブスターがかかる病院の看護婦。ウェブスターに頼み事をされる。
- 笠村警部 兵庫県警の警部。

【あらすじ】

群馬新吉は、阪急三宮駅西口前で、中学時代の同級生宇治光夫を見かける。開業医の宇治には「胸を張って歩ける男」の余裕が感じられた。一方、惰性でその日その日をお茶を濁して過ごしている群馬は、ひきめを感じ、声を掛けそびれる。冒頭の場面です。

■抜き差しならなくなった人間関係

【その一 群馬新吉とパーカー】

群馬に仕事をまわしてくれているパーカーだが、僅かのコミッションをまるで、施し物を与えるようにして支払う。（おれは乞食じゃないぞ！）また、群馬は、パーカーが芳子を奪ったと、いまも根に持っている。

群馬の立てた詐欺の実行犯、市川貫造。

【その二 美代子とウェブスター】

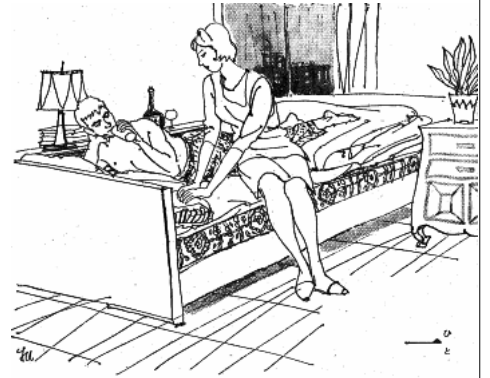
金ができる、金だけの世の中でないことがわかる。皮肉なものだ。美代子の心のスキマに、そっと吹きこんでくる風があった。鈴木伸と二度の秘密デートをもった。ちかごろでは、ともすれば良人にたいして憎悪を感じる。身ぶるいするほどイヤだと思う。そして彼女は、鈴木との三度目のデートのことを考えている。美代子が仕組んだ毒入りブランドイーを飲んで死んだのは予期しない人物だった。

【その三 ウェブスターと美代子、パーカー】

ウェブスターは、吉本清子の『平仮名密告文』と、坂井秀代の間違った情報をもとに行動を起こし、錯覚を重ね、拳銃により殺人（二人）を犯し、自殺を図る。



短編集未収録作品紹介/第3回4作、その3 「一人の城」



一人の城

中野 陳舜臣
野 舜臣
淳 臣

「一人の城」
は『小説現代』
一九六五年三月
号掲載。挿絵が
二つ入って十三
ページ弱の短編。

舞台・作中時間、登場人物及びあらすじ

「舞台・作中時間」

主たる舞台は阪急今津線沿線のK町。登場人物、関川智子は大坂のH病院勤務医。事件は大坂、京都に及ぶ。掲載誌の発行が一九六五年三月なので、作中時間もその頃か。

「登場人物」

●関川智子 45歳。目鼻立ちのとのつた、きりりとした美人。良人と共に関川外科を開業していたが、三年前に良人が亡くなり、その後、大坂のH病院の勤務医をしている。

●沼田家 昔、関川外科の隣に住んでいた。いまは少し離れたところのみすばらしいあばら屋それも、安原猛のタカリのせい。

父（沼田） 病弱。作品の記述では存否不明。母 愛知県の田舎出身。良人・安原との間に猛

が生れたが、良人に先立たれ沼田と再婚。沼田との間に三児をもうけた。一年前に死亡。

康子 長女26歳。大坂のW信用金庫勤務。

耕造 長男22歳。西宮のE運輸の運転手。

淳 次男20歳。神戸のM精肉店勤務。

●安原猛 三十四、五歳。予科練崩れで度胸があった。戦後の闇商売で荒稼ぎし、沼田家の困窮を救ったような時期もあったが、競輪にはまり、すつからかんに。その後、沼田家を食いものに。

●氷見警部 大阪府警の警部。

●千葉警部補 京都府警の警部補。

「あらすじ」

関川智子の父は国文学者で、厳格な人だった。他方、亡夫はやさしくあたたかかった。

あたたかさときびしさ。…彼女にはこの二つの世界しかなかった。が、このごろ、彼女に別の世界があらわれたようだ。なじみのうすい、蠱惑的な世界。―それをつくったのは、彼女のおんなであった。

智子は応接間から居間へ戻った。ドアをあける。―そこに、第三の世界があった。

ベッドのうえに、上半身裸で腹ばいになっている男がいた。年のころは三十四、五。安原猛である。（上の挿し絵）

結局、彼女は二つの世界にしか安住できぬ人間で、第三の世界をつくったのがまちがいだった。おんなのかなしさから、ふとその世界をもつようになったが、いそいでまたそれを抹殺しなければならなくなった。沼田家の若い人たちのため、というのもウソとは言いきれない。だが、それだけが動機だというのは、いつわりである。

二つの動機に加え、関川智子の猟奇的事件の引き金となったのは、彼女の病気だった。癌を患い、命が限られていた。

おのれのだいたいな城、ひめごとを刻みつけた城を、そのまま他人に明け渡すよりは、いっそ、それに火をつけるほうを彼女はえらんだ。

安原猛を殺害、庭に埋めようとしたが、小さなスコップで、しかも智子の弱った体力では、死体を埋める穴を掘ることは無理だった。仕方なく、頭部と腕だけを庭に埋めた。

両足は、梨の箱にいれ、大阪東淀川の工場地帯に捨てられていた。石油ストーブ用のボール紙包装箱に入れられた胴体は、京都向日町のゴミ捨て場で見つかった。

大阪府警の警部と京都府警の警部補がチームを組み、捜査に当たった。しかし、一と月たち、年があらたまつて、また一と月たち、半年が過ぎても被害者の身元さえわからなかった。



事件解決の情報が偶然やって来た。別件の聞き込みで、西宮競輪へ行った氷見警部は、隣の男の足を見て、オヤと思った。被害者の足と同じ場所、左足外くるぶしの上のほうに、直径五ミリほどの小さな黒マルが三つ、縦にならんでいた。

短編集未収録作品紹介/第3回4作、その4「おれは誰だ？」

漫画読本推理クイズ

おれは誰だ？

オリンピックとハイニツカセ
ットが当る犯人探し推理クイズ陳舜臣
画・吉原澄悦

「おれは誰だ？」は『漫画読本』の一九六五年9月号に掲載されました。挿絵が三つ入って八ページ弱の短編です。

舞台：作中時間、登場人物及びあらすじ

【舞台・作中時間】

N県の県庁所在地であるN市の郊外。
この作品は月刊誌の一九六五年9月号掲載です。作中時間もその頃でしょう。

【登場人物】

記述は、「宮川光男を殺したのは、ほかならぬこのおれである」という文章で始まります。このおれとは誰なのかを、登場人物、桜井、岩田、岸の中から当てるといって推理クイズです。

●おれ S協同組合勤務。その宿舎に住む。
古美術商に丁稚奉公をした経験があり、多少の鑑識眼をもつ。また、盗品の売り筋にも心あたりがあった。

●宮川光男 S協同組合につとめる。庭師として新井邸に出入りした経験をもつ。S協同組合の宿舎に住んでいたが、N市のはずれにある叔父の家が空いたのでそこへ移っている。

●新井 骨董類コレクター。
●桜井登 S協同組合勤務。その宿舎に住む。

●岩田正彦 S協同組合勤務。その宿舎に住む。

●岸五郎 S協同組合勤務。その宿舎に住む。
●市原警部

【あらすじ】

おれと宮川光男は新井邸に押し入り、数点の仏像や書画を盗んだ。
おれと宮川の会話。

「すぐ処分すれば、やつぱりヤバイ。一年ほどかくしておいて、それから売りに出すのさ。おれが片づけてやろう」

「それもそうだな。とにかく、あとのことは、まかせよう」

と云っておきながらおれは、千四百万円で、すぐに処分していた。一年後に、この内、四百万を宮川に渡すつもりでいたが、競馬、競輪、バクチ、酒、女。…おれは、はでにばらまいて、宮川の取り分にまで手をつけてしまった。

一年が経ち、おれは宮川に催促され、その夜、新聞紙を切ってつくった『見せ金』をもって、かぼそい雨のなかを自転車で宮川の家へ出かけた。そして、宮川を殺害した。

宮川の死体は、はやく発見された。炊事を頼んでいた近在の農家の老婆が、午前六時には宮川の家に行ってくるのである。



早朝、市原警部は二人の刑事をつれて、S協同組合の宿舎を訪ねた。

補足及び解決編

「おれは誰だ？」は掲載誌『漫画読本』の推理クイズ作品です。犯人を推理し応募すると正解者の中から賞品が当たる。翌月号に「解決編」と当選者の発表があります。

■「おれは誰だ？」解決編

■前号推理クイズ

「おれは誰だ」解決編

陳舜臣

おれは岸五郎。前夜のアリバイについて、おれは調子にのってしゃべりすぎたようだ。雨は十一時から二時まで降った。集中豪雨型ではなく、霧のようにシトシト降ったのだ。おれは十一時から二時間、タンシチューを煮こみ、そのあと行水用の湯をわかしただけだった。つまり二時まで火をつけていたことになる。しかも電熱もプロパンガスもない。あるのはカマドだけで、それには煙突というやつがくっついていて、カマドに火をいれておれば、熱気が煙突をのぼって、その笠をあたためる。霧のように軽い雨が煙突の笠にふわりと降っても、すぐ乾くはずではないか。

警部のやつ、おれの家の煙突の笠が、カマドを使わぬほかの二軒とおなじ濡れ具合だと指摘した。そして、その時間、おれは供述したことを以外の作業をしていたにちがいない、と問いつめてきた。

口惜しいが、ズバリだった。

当選者氏名は二三一頁にあります。